様式第３号

令和４年度　学校経営報告書（自己評価）

学校番号	20	学 校 名	静岡県立浜北特別支援学校	校 長 名	山村仁

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	**個性を生かし確かな成長を感じられる教育活動を進める。**	コロナの状況を踏まえた学習グループ編成、系統性を踏まえた年間指導計画の実践ができたと感じる教員 100%	系統性を踏まえた年間指導計画の実践をし、達成感・喜びのある授業実践をした。 98.8%	A	【成果】 学習指導要領やラーニングマップ等を用いて、系統性を踏まえた授業実践を行うことができた。（学習指導） 評価時期前に教員アンケートを実施し、児童生徒の適切な実態把握や目標設定、手立ての見直しができた。（教務） 作業学習で身に付けた力を評価し、その力を他の場面で活用できるように手立てを講じたことで、確かな学びの力を引き出すことができた。（高等部） iPad で撮影した友達や自分が活動している動画や写真を見て笑顔になったり自分から活動に取り組んだりする児童の姿が見られた。（小学部） 【課題】 学習指導要領を反映させた年間指導計画の作成、学習評価ができるようにするための教務課、学習指導課、研修課の連携（教務） 年間指導計画の振り返りや見直しの定期的な実施（学習指導） 的確な実態把握を基に目標設定や評価が行える研修の計画立案と実践（研修） 教員がＩＣＴ機器の児童生徒への教育効果を正しく理解して活用するための研修の実施（小学部、情報教育）
		児童生徒が一人一人の個性を生かし、成長できたと感じる教員、保護者 100%	学習指導要領や自立活動目標分析シート等を用いて根拠ある適切な目標設定を行い、児童生徒の年間目標達成率が８割以上であった。 96.5%		
		チームで達成感・喜びのある授業を実施した教員 100%	チームで授業づくりを推進し、児童生徒が身に付けた力を活用する「確かな学びの姿」を見取った。（自立Ｇ：児童生徒が年間目標に向けて着実に力を身に付けた「確かな学びの姿」を見取った。） 97.7%		
		児童生徒自身がＩＣＴを活用した学習を実施した学年 100%	教師が操作したＩＣＴ機器を使った学習教材を児童生徒が見る、聞く、または、児童生徒自身が操作する授業実践を１回以上行った。 100%		

様式第３号

イ	具体的な将来像を確より明にした地域で生きる力を培う。	キャリアシートを学年・学級経営に生かし、生活年齢に応じた力をつけた児童生徒 100%	キャリアシートを生かした学年・学級経営を実践し、児童生徒が生活年齢に応じた力を付けることに結び付いた。 97.7%	A	【成果】 キャリアシートにより教員が定期的に支援や指導の実践の見直しができ、生徒が学級目標に自分から取り組む機会が増えた。（高等部） キャリアパスポートの活用により教育活動全般で児童生徒が自分の目標の達成を目指すことができた。（進路） 保護者がキャリア教育を知ることで、あいさつや手伝い等の家庭での取組が増えた。（進路） 【課題】 教員による担当している生徒の実態に合うようなキャリアシートやキャリアパスポートの柔軟なアレンジの実行（進路） 産業現場等における高等部生徒の実習の様子（映像）の小・中学部の教員への共有機会の拡大（進路）
		教育支援計画に地域で生きる将来像を盛り込み、キャリアパスポートを活用し、児童生徒が目標に向かって力をつけたと感じる保護者、教員 100%	キャリアパスポートを活用した実践が、児童生徒の目標達成に結び付いた。 97.0%		
			教育支援目標を達成するために、保護者や生徒本人と一緒に、地域や家庭での生活について具体的な目標を立てたり、評価したりした。 98.2%		
ウ	お互いが人を大切にして、笑顔に満ち溢れた学校生活を実現する。	相手を意識して自ら笑顔であいさつができた児童生徒、教員 100%	自分は、相手を意識して笑顔で挨拶ができた。　98.9%	A	【成果】 「あいさつ名人」の表彰を目標や励みにして、自分から他の児童や教師に挨拶することができた。（小学部） あいさつ運動を通して、挨拶が当たり前だと認識する生徒が増えた。（高等部） 学部縦割りの学習で、先輩が率先して後輩を助ける場面が見られた。（中学部） 年３回の人権研修や定期的な人権チェックにより教員の人権意識を高めることができ、重大ないじめ０につながった。（生徒指導） 【課題】 生徒によるあいさつ運動の振り返りや自己評価の実施（高等部） 携帯電話やＳＮＳの利用法や友だちとの関わりについての継続的な指導や支援の実施（生徒指導）
			児童生徒が自ら笑顔で挨拶できるように指導し、児童生徒の行動に結び付いた。 100%		
		重大ないじめ　０	重大ないじめ　０		
			望ましい人間関係づくりができるように指導・支援をし、いじめにつながる行動を見逃さなかった。 98.9%		
		学校は楽しい、学校に来たい、居心地がいいと答える児童生徒 100%	児童生徒一人一人の気持ちに寄り添い、互いを認め合い協力し合う学年・学級づくりを実践し、児童生徒の行動に結び付いた。　98.9%		

様式第３号

エ	明確で実際的な危機管理・安全体制を整備する。	簡易危機管理マニュアルの策定	策定できた。	A	【成果】 簡易危機マニュアルや緊急捜索・スクールバス緊急時のマニュアルを策定できた。 （防災、生徒指導） 定期的な机上訓練により、ＡＥＤの場所や不審者対応等を教員が再認識できた。 （中学部） 様々な場面を想定した訓練を行い、教員も児童生徒も素早く適切な避難行動ができた。（防災） 浜松市防災学習センターへ行き、避難場や段ボールベッド、簡易トイレを体験して、避難場での過ごし方やトイレ等の使い方を理解することができた。（高等部） 器具庫内の備品の管理方法を視覚的に提示し、整理整頓された状態を保つことができた。（体育） 保健委員会の生徒を中心にポスターを作成し、健康や安全への児童生徒の意識が高まった。（保健） 【課題】 生徒の自転車の自損事故が４件発生。自転車の安全な利用について注意喚起の徹底 （生徒指導） 児童生徒による破損を減らすための物品の材質や作りに注意をした備品購入（体育） スクールバス緊急時の訓練の実施（生徒指導） 災害時における搬出班以外の班の動きの確認（防災） マスクを常時着用することや口や鼻を隠すことが難しい児童への実態に応じた根気強い指導の継続（小学部）
			策定された簡易危機管理マニュアルの内容を理解し、緊急時に行動できた（できる）。 99.2%		
			緊急捜索、スクールバスの緊急時対応の簡易マニュアルの内容を理解し、緊急時に行動した（できる）。 98.6%		
		マニュアルに沿って主体的に行動できた教職員 100%	災害時の自分の役割や予想される児童生徒の行動を理解して訓練を行った。 100%		
			体育施設や備品の正しく安全な使用方法を理解し、児童生徒の使用時に重大な事故を防いだ。 100%		
		医療的ケアを含め、ヒヤリハットの活用による重大な事故０	重大な事故 0		
			医療的ケアのヒヤリハットの報告や事後の振り返りを生かして、校内での事故防止を意識し、重大な事故を防いだ。 100%		
			校内での事故防止を意識して安全対策や安全指導の実践を行い、重大な事故を防いだ。 96.7%		
		自分の命や健康を自分で守るための取組ができた児童生徒 100%	「自分の命を自分で守る」ための授業を実践し、児童生徒の行動に結び付いた。 100%		
			マスクや手洗い、消毒などの感染症対策を実践し、児童生徒が自分から感染症対策を行ったり、受け入れたりする行動に結び付いた。99.2%		

様式第３号

オ	**地域とネットワークでつながり、共生社会の実現を目指す。**	新しい生活様式を踏まえ、地域の「人・もの・こと」とつながる新たな取組を実現した学年 100%	新しい生活様式を踏まえ、地域の「人・もの・こと」とつながった新たな取組を学年として１つ以上行った。 98.1%	A	【成果】 授業で地域ボランティアと積極的に会話する様子が見られた。（中学部） 学校間交流や交流籍交流では、事前に児童生徒の実態を伝えたり活動内容の検討をしたりすることで、双方が関心を持って交流することができた。（特別支援） 就労アセスメントに係る生徒がスムーズに関係機関とつながることができた。（進路） コロナ禍の３年間で最も、ＰＴＡ活動が充実したことや他の機関と密につながったことを実感できた。（総務） COCOO の利用でＰＴＡ活動の周知と参加状況の把握がスムーズにできた。（総務） 【課題】 保護者や教員に交流活動の主旨を正しく理解してもらう周知の徹底（特別支援） 関係機関のことを知らなかったり分からなかったりする保護者が多かったことへの対応（中学部） 保護者の施設見学に夏休みを利用できるような時期の変更（進路） ＰＴＡ役員が負担感なく活動できる内容の精選と取組の工夫（総務）
		双方の成長を促した交流活動ができたと感じる教員、保護者、相手校 100%	学校間交流において、相手を感じられる交流活動を実践し、成果を上げることができた。 90.1%		
		保護者、教育、就労、医療、福祉機関とつながり、対応を具体化できたと感じる教員 100%	保護者や関係機関と連携して、産業現場等における実習の打ち合わせや就労アセスメント、移行支援会議を実施し、成果を上げることができた。 97.7%		
			保護者に福祉施設の見学の機会を提供し、成果を上げることができた。 89.6%		
			必要度に応じて他機関との情報交換や支援会議を行い、具体的に対応することができた。 95.5%		
			学校とＰＴＡ組織が連携し、保護者がＰＴＡ行事に計画的に参加した。 97.6%		

様式第３号

カ	信頼を得られるチームを作り、業務改善による効率化を図る。	高い倫理観と人権意識を持ち、助け合い、協力し合う組織になったと感じる教員 100% 不祥事　0	各グループ研修をとおして、対話や協働ができるチームになった。　100%	A	【成果】 学年や学級の教員同士で声を掛け合ったりダブルチェックしたりすることで、ミスを回避して会計や事務の処理を行うことができた。(小学部) 会計係長を中心に教員間でトリプルチェックを行い、会計ミス０であった。(高等部) COCOO による文書の配信やアンケート集計、Zoom での会議の実施や会議でのペーパーレス化を実施することで業務を効率化できた。(教務) カメラや iPad を持ち出す際には写真や動画の削除をし、必ず持ち出し簿で管理をすることで情報漏洩０であった。(情報管理) コロナスタッフやワックス業者の活用により、業務の削減ができた。(保健) 教員それぞれが退勤時間をカードに書いて自分の席に掲示することで退勤時間を意識して業務に取り組むことができた。(小学部) 【課題】 メンタリングサークルの定期的な実施（高等部） 情報に関するヒヤリハットの報告の徹底（情報教育） コピーによる印刷物の放置やミスの改善（総務） 児童生徒の指導に対する「困り感」への対応や家庭支援が必要なケースに対する早い段階での支援等、について日常的に相談できる仕組みの整備（特別支援）
			児童生徒の校内の支援体制や外部機関とのつながりについて、各学部のコーディネーターが支援体制を整えるアドバイスを行い、教職員同士が協力し合えた。 97.7%		
			情報セキュリティマニュアルに沿って、情報機器やサーバー内のデータ管理、紙媒体等の扱いを行い、情報漏洩が０であった。 99.3%		
			互いに気持ちよく働けるように、適正な会計処理や時間・提出期限の厳守、ハラスメントや無駄な印刷をしない、節電などに努めた。 98.9%		
			不祥事　0		
		個別に意見を提案し、チームで業務改善の方策のアイディアを考え、効率化を図れたと感じる教職員 100%	職員会議の回数が減った・ZOOM で行われ楽になった・COCOO の利用によって保護者への配付文書が減ったなど、業務の効率化を感じた。 100%		
			職員室、印刷室、駐車場の利用や日番の周り方など、働きやすい環境になった。 100%		
		年間の時間外勤務 360 時間以内 100%	４月～12月現在の年間の時間外勤務が 270 時間以内である。　91.2%		